

【参考資料】

〔ほ場整備の導入を契機とした新たな経営展開の事例〕

宮守川上流地区（遠野市）や北方地区（金ヶ崎町）の他にも、ほ場整備の導入によって、水田の大区画化や乾田・汎用化が図られ、多くの地域で転作作物の産地形成や6次産業化など、新たな農業経営が展開されている。

また、こうした動きが地域の活性化をもたらしている。

① 遠野市の事例

ほ場整備事業「綾織地区（H4～H13）」 178ha

- 水稲、麦・大豆・そば等の基幹作業委託による経営の効率化
⇒ 「あやおり夢現会 21」
- 余剰労働力を活用し、少量多品目の野菜栽培による地産地消の実践
⇒ 道の駅「遠野風の丘」の産直コーナー、レストランへの供給
- 女性達による農家レストラン「夢咲き茶屋」の運営
⇒ 「あやおり夢を咲かせる女性の会」

② 紫波町の事例

ほ場整備事業「長岡地区（H6～H14）」 194ha

- 水稲と小麦のブロックローテーション、地産地消や安全・安心な野菜づくり
⇒ 農事組合法人「ゆいっこの里犬草」

③ 一関市の事例

担い手育成基盤整備事業「奥玉地区（H7～H18）」 187ha

- 転作田を活用したトマト、小菊など園芸作物の導入
- 7集落を1農場とした県内最大規模の農事組合法人「おくたま農産」

④ 奥州市の事例

担い手育成基盤整備事業「原体地区（H8～H15）」 68ha

- 水稲・大豆のブロックローテーション、ピーマン、ブルーベリー、アスパラガス、タラノメの作付け ⇒ 農事組合法人「原体ファーム」
- 農産物加工販売施設「夢の里工房はらたい」
⇒ 米粉パン製造、ブルーベリー加工など

⑤ 北上市の事例

担い手育成基盤整備事業「二子地区（H8～H18）」 298ha

- 水稲と転作作物（さといも、大豆）のブロックローテーションにより経営の強化
⇒ 農事組合法人「二子中央営農組合」

⑥ 花巻市の事例

担い手育成基盤整備事業「八重畑地区（H9～H22）」 371ha

- 「日本一の雑穀の里」を掲げ、大規模機械化栽培による雑穀の生産拡大、水稲や転作作物とのブロックローテーション

